暮らしを支える『まちバス』

令和3年4月1日から運行が始まった「まちバス」。運行開始から1年が経とうとしている現在でも、まちバスは高齢者を中心にたくさんの人たちの移動手段として活躍しています。
今回の特集では、町民の暮らしを支える役目を担っている「まちバス」について紹介します。

「まちバス」の詳しい時刻表や運行ルートを知りたい人は、こちらからご覧いただけます。

まちバス誕生の背景

まちバスが運行する以前、町内ではJR佐世保線や祐徳バス武雄線(路線バス)、タクシーが主な公共交通として利用されていました。しかし鉄道や路線バスは利用可能な地域が限られ、運行本数も少ないことから、自動車を自由に運転することができない高齢者の買い物、通院等の移動手段を確保することが課題でした。

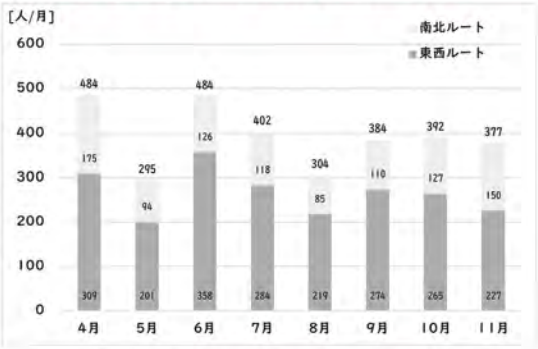
このような課題を解決するため、町では令和2年度に「日常生活の外出や公共交通に関するアンケート」調査を行いました。調査では「自家用車を運転できなくなったとき、買い物や通院が不安」「町内に巡回バスを運行してほしい」という意見が多く占めました。

まちバスは、これらを踏まえて運行しており、通院や買い物など、高齢者を中心として日常生活に欠かせない移動手段となっています。

まちバスの利用状況

まちバスは、南北ルートと東西ルートがあり、月あたり合計で300人～500人程度が現在利用しています。

(グラフ)
まちバス利用者の推移 (令和3年度)



まちバス利用者数　3,122人
(令和3年4月1日～令和3年11月30日)

大町町第5次総合計画で定める
まちバス利用者数の目標指標

(最終目標) 年間 **3,900** 人